

## 銅賞（神戸海事広報協会会長賞） 6点

### 「人生初のシーグラス探し」

南あわじ市立 湊小学校 6年 出嶋 希々果

あるビーチバレーの日のことでした。ビーチバレーが終わって家に帰ったときママが、「これみて」と、私にそつと行ってくれました。ママが手に持っているものをみるときれくて可愛い石でした。私が、「それなに」と、きくと「これはシーグラスといってなあたとえば川から流れてきたガラスが海に流れついて何度も波に打たれてまんまるになったガラスのことやで」と、教えてくれました。私はシーグラスのようなきれくて可愛いものが大好きなのでわたしは「それって何個もあるん」とききました。ままは、「海で探したらあるよ」と、言ってくれました。私は、自分の部屋に飾りたかったので「私も探しにいきたい」と、まるで新一年生の声のように言ってしまいました。私は、そのほんの一瞬が、とてもはずかしかったです。

そして数日後。ならいごとがないときに、ママと弟と私の3人で海でシーグラスを探しに行きました。そしたらたくさんシーグラスが見つかりました。

その夜、私はシーグラスをあらひ何度も何度もシーグラスを「きれいだなあ可愛いなあ」と思いながらながめていました。

その次の日のことでした。私は「部屋にどう飾ろう」と、考えていました。時計をみるととても時間がたっていたのでびっくりしました。私はシーグラスでブレスレット、ランプ、ネックレス、ストラップなどのものを、つくってみたいなと思いました。私は、「シーグラスで何かをつくるのを自由研究にしよう」と思いました。インターネットで作り方を調べたらほとんど「機械」を、使っていました。なのでシーグラスで何かをつくるのは、やめました。

また数日後。シーグラスを探しに行きました。海で弟と遊んで、シーグラスを探して、とじていたらいつの間にか5時の音楽が、流れました。私と弟は、5時の音楽をきいて、「もう5時や」と、声をそろえて言いました。2人で顔をあわせて笑いました。私は将来、「シーグラスを探す」と、いう職業があつたら絶対にやりたいです。

やがて、シーグラスがどんどん増えてシーグラスをながめていたら「思わずねて

しまう」くらいきれくて可愛かったです。まるで、「夢の世界」の、ようでした。私が、大人になって、結婚したら私の子どもに、シーグラスをプレゼントして喜ばせてあげたいです。

私は、シーグラスを飾ったり、探したり、することが、大好きなので、とてもいい思い出になりました。

## 「海へ行ったよ」

神戸市立 御影北小学校 2年 土井 萌々花

夏休みに、おじいちゃんと、おかあさんと、おとうとと、いとこのきょうだいと、青森県むつし川うち町の海に行きました。海に行った日は、あつかったから、すなの上にたつと足があつかったです。水はつめたかったです。

わたしは海でおよぐのが、にが手だからおよげるかしんばいだったけど、とおくまでおよげてうれしかったし、よかったなあとおもいました。かたいはっぱのような海草が体にぶつかって、いたかったです。一回もぐってみたけれど、海だからしよっぱかったし、すこし目にしみました。でもたのしくおよいでいたら、いつのまにかしよっぱかったことも、すこし目にしみたこともわすれていました。

おとうとと、いっしょにすなあそびもしました。なみがくるばしょの、すなだったから、すこしだけぬれていて、かたちをつくりやすかったです。山やおしろをつくってあそびました。すなはどろどろでも、しめっていても、さらさらでも、きもちよかったです。さむいときは、足や手にすなをのせて、あったかくなりました。

それがおわって、かにをつかまえに行きました。どうぐは、たこ糸とするめいかです。かには、あじがこくてかたいものがすきと、いところがおしえてくれました。けれど、わたしは一ぴきもつれませんでした。いっしょに行きたいとおとうとが、一ぴきだけつれました。すごいなあと思いました。いつもは、二十ぴきぐらいつれるとっていたいとも、一ぴきもつれませんでした。魚は一ぴきはあみで、もう一ぴきは手でつかまえていました。

かにをつかまえるときは、水ぎではなく、ふつうのふくだったので、むちゅうにならないうら、いつのまにかぬれていました。シャワーの水はあつたかかったので、たくさんあびて、あつたかくなりました。

車で海まで行ったので、かえり道車よいをしてしまいました。けれど、わたしはたのしくかえりました。

また青森県むつし川うち町の海に行きたいです。もちろんほかの海にも行ってみたいです。わたしは、なみで、ぼよーんとあがるのがとんでいるみたいで、大すきになりました。

こんどはもっと長くあそびたいです。そのときは、おとうさんと、おかあさんと、おとうとと、わたしで、ゆっくりおよいで、ビーチボールバレーであそんでみたいです。みんなでおよぎきょうそうをして、たっくさんあそびたいです。こんどは水中めがねをもって行って、海の中がどうなっているかよく見てみたいです。魚や生きものに出会えるかたのしみです。

## 「はじめてのあわじしま」

川西市立 川西小学校 2年 日高 心晴

夏休み、かぞくで、あわじしまにきました。はじめていったあわじしまの海は、青くて、色がうすくて、キラキラしていました。

たくさんの人がいて、みんなたのしそうに海であそんでいました。

おかあさんと、おとうとと、いっしょに、たくさんおよぎました。上をむいてうかんだら、青い空に大きな白いくもが見えて、「きれいだな。」とおもいました。

そのあと、おとうさんと、あみで、魚やいろんな生きものをつかまえました。ちゃ色のダイヤみたいな魚が二ひきとれて、バケツにいれたら、ひらひらとおよいでいました。

ほかには、やどかりがいっぱいとれました。やどかりは、よこむきに、きょうそうしているみたいに、いそいであるいていました。

ワカメみたいなミドリエビは、やどかりをつつくようにスイスイおよいでいました。

海をみながらたべたおべんとうは、いつもより、おいしかったです。

おひるごはんのあと、すこしあそんだら、海があさくなっていました。さっきまで海だったところが、すなはまになって、大きな水たまりが二つできていました。水たまりの中には、かにや魚がいっぱいいました。

でも、うかんできたすなはまには、びんや手ぶくろ、ビニールぶくろがたくさんおちていました。

「なんで、こんなところに、ゴミがあるんだろう。魚は、いやだろうな。」と思いました。

みんながゴミをすてないようにしたら、海がもっときれいになるだろうな、と思いました。

ゆうがた、魚やミドリエビ、やどかりに、「バイバーイ。」とって、海にかえしました。

らい年も、あわじしまにいて、きれいな海で、また、あそびたいです。

## 「渦潮について」

川西市立 川西小学校 6年 菅野 真由

8月1日兵庫県淡路島と徳島県鳴門市の間で、家族と、いとことおばあさんとで船に乗って渦潮を見ました。渦潮を見て、渦潮ができる条件がすべてそろっていてすごいと思いました。今からその条件を説明します。

まず最初に、海は月や太陽の「引力」という力によって引っ張られていることと、地球は、自分の力で1日1回転する「自転」という運動をしていることです。どちらも渦潮に関係があります。その他にも、鳴門海峡のせまさによって、流れる速さにちがいが出て、その境目で渦が生まれる。また、渦潮は時間によって見える位置がちがいます。見える位置は2種類あって、1つは瀬戸内海側、もう1つは太平洋側です。瀬戸内海側の渦潮は、太平洋からの満潮が鳴門海峡へ進み、大鳴門海峡をくぐると渦潮をつくりながら瀬戸内海へ流れていく。

この時に、潮は高い方（満潮）から低い方（干潮）へ流れていく。太平洋側の渦潮は、6時間かけて3つに分かれた潮が1つは四国を回り込み、1つは瀬戸内海からまた戻ってきて、1つは明石海峡を越えた潮が淡路島の左側で一緒になり、瀬戸内海側を満潮にしていく。太平洋側は、満潮から約6時間が経ち干潮をむかえている。海峡の両側では、また高さの差が大きくなり、さらに瀬戸内海側の満潮は、引力によって南の太平洋側へ動こうとするので、潮は激しく流れ込みます。こうして、先ほどとは反対側で渦潮ができます。

鳴門の海には約6時間ごとに、瀬戸内海側と太平洋側で交代交代に、1日4回渦がまきます。これらのことからまとめてみると、渦潮ができる条件は、大量の水と鳴門海峡のせまさと、速い水の流れと、満潮・干潮の高低差と海の底のデコボコによってできます。一応毎日この条件は揃うのですが、時間が良くてもお天気や風、台風などで波そのものが荒くなっているときや、高さの差が小さいときは、渦潮ができなかったり、小さな渦が少しだけまいているようになります。特に、3月下旬から4月下旬は、一年で最も良い渦潮の見ごろの時期とされています。実際に渦潮がたくさんできていたのですごかったです

## 「海を守る」

高砂市立 米田小学校 3年 黒橋 海光

ぼくの家ぞくは、ほ育園の時から毎年ふくい県おおい町へ、キャンプに行きます。このキャンプ場は、すぐ目の前が海でとてもきれいです。夜はずかで星がきれいに見えます。でも夜にタヌキがゴミをあさりに来ることもあるので、ねる前にゴミをかたづけなければいけません。

この夏は、弟といっしょにカヤック、サーフィンに、ちょうせんしました。さいしょはむずかしかったけど、なれるとじょうずにすすむことができました。夕方に貝がらをさがしに、たんけんに行きました。夜は、バーベキューをして、はんごうでお米をたきました。外で食べるごはんは、家で食べるごはんよりもおいしかったです。

ぼくは、シュノーケルで魚をさがすことが好きです。ヒトデ、ヤドカリ、カニは、つかまえられるけれど、魚は、はやすぎてむずかしいです。去年は、水もきれいでタコを二ひき、もりでつかまえました。けれど今年は、台風で海がよごれて、魚も見えにくかったです。海は、アルミカン、ビン、プラスチック、おかしのごみなどでいっぱいよごれていました。ぼくは、海がよごれて魚が、かわいそうだと思います。ぼくの家がゴミやしきになるとかなしいので、魚たちもきっと同じ気持ちだと思います。ぼくは、魚をたすけたいので、海をずっときれいに守りたいです。そのためには、自分のゴミは、自分で持って帰ります。みんなもゴミを海にすてなければ、きれいな海はいつまでも守られます。ゴミを海にすてないようにルールを守ってほしいです。

ぼくの名前に「海」がついているのは、家ぞくが海が大好きだからです。テントは、クーラーがないのであついです。キャンプにはテレビやゲームもありません。でも、毎年この海でいろんな思い出ができます。これからも、この海で家ぞくとたくさん思い出を作って行きたいです。

## 「海の未来」

高砂市立 米田小学校 4年 山下 奏都

海は、誰もが楽しめることができます。

海のいいところは、全国からたくさんの人に来て、楽しく遊べるところです。海は広いから、はしゃいでも人にぶつかったり、せまいと思うことが、少ないからです。海水浴ができる場所では、海の家があります。海の家で食べる焼きそばやアイスは、とてもおいしいです。

しかし、海は不安な事もあります。一つ目は、海がよごれてきているところです。海に物を投げたり、ゴミを捨てられたりされています。海に物やゴミを捨てると、海がにごってしまったり、くさくなったり、海で生きている魚たちは、死んでしまいます。海がよごれていることで、楽しい海水浴ができなくなってしまいます。

二つ目は災害です。台風や嵐がきた時に、海が氾濫して、町や家をめちゃくちゃにしてしまうからです。住めなくなったり、ケガをしてしまう人達がいるからです。津波も海がこわいものになってしまいます。東日本大震災の津波は、多くの人の命をうばってしまって、この状況をテレビで見た時、海が本当にこわいと、ぼくは思いました。海は楽しい場所でもあるけど、気をつけないといけない場所でもあると思います。

次に、これからの海について、ぼくは考えてみました。世界が協力して海の恵みをいつまでも守っていくことは、大切だと思います。海は、色んな魚が住んでいて、ぼく達の食事との関わりが大きいです。海の環境を守ったり、良くしたりすることは、海の活用につながってくると思うので、日本だけじゃなく、世界の国と国とが協力していかないといけないと思います。それに、違法漁船がきまりを守らず、魚を必要以上にとっているそうです。そんな漁船がいることで、水産資源のバランスが崩れ、魚の減少や海の環境破壊になっていると思うので、海のパトロールを強くしていき、豊かな海を保っていくことが必要だと思います。世界で海の問題を話し合いすることが増えたらいいと思います。

東日本大震災があってから、災害への対応が色々考えられたと思います。これからぼく達のような若い人が中心になって、海の災害を防ぐために話し合う機会を多く作っていき、また、小さい子どもに伝えて、海と共に生きていき、よりよい生活が過ごせるようにしないといけないと考えます。

海の未来には今後も問題は出てくると思います、日本は海に囲まれているので、海の手や海の手を活かして、日本を元気にして、ぼく達の生活がもっと豊かになるように色々と考えていこうと思っています。